

ごあいさつ



大会名誉会長

長崎新聞社代表取締役社長

木村 忠 廣

長崎新聞社ならびに長崎県軟式野球連盟主催の長崎県軟式野球選手権大会がこのたび60周年を迎え、記念誌「60年の熱戦譜」が発刊されますことをお祝いいいたします。

本大会は1951（昭和26）年9月29日、「第1回県下郡市対抗軟式野球大会」として産声を上げました。同年5月に竣工したばかりの長崎市営大橋野球場で県内の郡市を代表する10チームが入場行進を行い大会の門出を祝いました。60年の歴史をひも解きますと、幾多の名勝負が生まれてまいりました。カワシモスポーツ（佐世保）が諫早ドッグプラザ（諫早北高）と延長21回の熱闘を繰り広げた末、栄冠を手にした第23回大会。第38回では長崎県経済連（長崎）が4連覇を目指した親和銀行（推薦）を退け、初優勝に輝きました。平成に入ると県営ビッグNスタジアム、長崎市営かきどまり野球場が完成。会場が変わっても、毎年熱い試合が続いております。

本大会は、県軟式野球連盟に加盟するチームが各支部を代表し、県内の王者を決める場であります。終業後の時間などを利用して仕事と両立させながら、一丸となって厳しい練習を乗り越えてきた選手、チーム関係者の皆様のご努力に対してあらためて敬意を表します。

2014（平成26）年には、本県2巡目開催の長崎がんばらんば国体が控えております。長崎県軟式野球選手権大会に参加される皆さんの奮闘される姿が所属される職場や地域の枠を超え、ひいては県民全体に活力を与えてくださるようになることを祈念いたしまして発刊ならびに60周年のお祝いとさせていただきます。